



あおぞらのホームページをご覧ください

## 共に活動する

あおぞらの最新情報を知る。

あおぞらの活動を知る。

あおぞらにお問い合わせをする。

あなたの支援が赤ちゃんとお母さんの「笑顔」につながります。  
私たちとともに社会を変えていきませんか？  
あおぞらのホームページを見れば、「あなたと一緒にできること」がたくさん見つかります。

## 寄付をする

自由な金額で寄付する。

自由な金額でご支援いただく寄付です。お支払いには、クレジットカード、銀行振込で寄付することが可能です。

マンスリーサポーターになる。

マンスリーサポーターは、毎月一定額の寄付を通じて、認定NPOあおぞらの活動を支援いただく仕組みです。月額1,000円、3,000円、5,000円、10,000円の4つのコースから希望金額を決めてご寄付いただけます。クレジットカードからの毎月自動引落ができ、定期的に活動をサポートいただけます。

詳しい情報はここから ▶▶▶

あおぞらカンボジア

検索



<https://npoaozora.org/>

◀◀◀ お申し込みはここから

## あおぞらの活動を広める・伝える

あおぞらのSNSをフォロー・シェアして、一人でも多くの人に知ってもらおう事で、活動を続けて行くことができます。



@aozoranpo

QRコードにアクセス ▶



@aozoranpo

QRコードにアクセス ▶



@aozoranpo

QRコードにアクセス ▶



## 組織概要

【名称】 認定特定非営利活動法人あおぞら 【連絡先】 TEL:050-7112-7508 【設立】 2017年07月28日  
【所在地】 〈栃木事務所〉 栃木県宇都宮市徳次郎町7-3 〈京都事務所〉 京都府京都市中京区手洗水町647トキワビル4-B



# 5th ANNIVERSARY

2017-2022

Approved Specified Nonprofit Corporation AOZORA

認定NPO 法人あおぞら5周年の歩み、  
いままでもこれからも「笑顔」のために



2021年 年次報告書  
5周年記念誌

世界は確実に良くなっている。だけど、まだ足りない。

## Message

平素より、認定NPO法人あおぞらをご支援いただきまして、誠にありがとうございます。  
2020年に続いて2021年もコロナ過での活動ではありましたが、2020年の活動を乗り越えた経験があったことで止まることなく進むことができました。

1月に約200名の方々から約600万円の支援をいただき達成することのできた『パレスチナ ガザ地区へのマスク支援プロジェクト』で、2021年のスタートを切ることができたことは、あおぞらとしても大きいものでした。同じく1月にJICAラオス様のご協力をいただき、ラオス チャンパサック県病院にて救命救急対応シミュレーションの遠隔講習会を実施しました。2月には、現在あおぞらのスペシャルサックスサポーターとしてご協力いただいているプロバスケットボール寺嶋良選手との初のチャリティーイベントを行い、寺嶋選手からのご支援とチャリティーイベントの収益でカンボジア サンプール地区の一般家庭40世帯に浄水フィルターを導入しました。

昨年から続いていた、サンプール地区の小学校への手洗い場建設支援は、6月までにすべての小学校へ手洗い場の導入を行うことができました。

夏には、法制国際高校の“SmiRing”と一緒に、あおぞらがサポートする形でクラウドファンディングに挑戦し、サンプール地区の一般家庭150世帯に浄水フィルターを導入しました。このプロジェクトは、あおぞらにとっても2020年のConHeartプロジェクトに次ぐ、若者が行動する国際協力の第一歩の背中を押す活動であり、あおぞらは今後もこういった、「誰かを想う気持ちを繋ぐ」架け橋になれるよう活動を続けたいと思っています。

2022年現在、コロナ規制が緩和されてきたとはいえ、コロナ過以前の世界とは別物で、すぐに動くことができず、水面下での活動が多くなっているのが現状です。スムーズに活動の全容を皆様にお知らせすることができないなかで、変わらずご支援、応援いただいている皆様には本当に感謝しています。

どんな状況においても、目の前のできることをやるというあおぞらの姿勢は変わりません。今後とも、認定NPO法人あおぞらの活動を応援いただけますと幸いです。

よろしく願い申し上げます。

認定 NPO 法人あおぞら一同

## Contents

### 2021年 年次報告書

2021 Annual Report

カンボジア活動報告 04

タンザニア活動報告 07

ラオス活動報告 08

日本活動報告 09

パレスチナ活動報告 10

メンバーメッセージ 14

活動計算書 16

### 5周年記念誌

5th Anniversary 2017-2022

5周年記念誌 17

ごあいさつ 18

あおぞらのストーリー 20

5周年記念特別対談 22

あおぞら5周年に想いを寄せて 26

扉絵 30

書籍紹介 32

協賛 34

## カンボジア

CAMBODIA



2021年は、2020年の新型コロナウイルス感染拡大における影響のなかで出来ることを引き続き行って参りました。2021年3月にカンボジア サンブル地区 Tmor

dorb小学校に、フジタランニングさんご協力のもと、建設を実施。手洗い場を建設しました(あおぞらとして4校目)。この小学校では幼稚園も併設されており、ため池で手を洗っている現状でした。

4月には、同じくサンブル地区 Kror bauv小学校に手洗い場を建設しました(あおぞらでは5校目)。もともと手洗い場があった小学校でしたが、300名弱の生徒数に対し、蛇口が4つだけでした。その水



も、電気モーターでため池から貯水タンクに水を引っ張っていたもので、衛生的とは言えませんでした。

6月は、サンブル地区Lor小学校に手洗い場建設しました(あおぞらでは6校目)。幼稚園が併設され生徒数も300名を超えているなか、手洗い場はため池の水を引っ張った先生が自作したものでした。こちらも、先生から手洗い場の数が足りなく、衛生的にも良くないとの声が上がっていました。この手洗い場建設で、サンブル地区の小学校すべてに手洗い場支援が完了しました。



おなじく6月にあおぞらのスペシャルサクスサポーターであるプロバスケットボール寺嶋良選手(当時、京都ハンナリーズ所属。現、広島ドラゴンフライズ所属)ご協力のもと、カンボジア サンブル地区の40世帯へ家庭用浄水フィルターを導入しました。



スタッフより、浄水フィルターのメンテナンス方法、衛生環境を整えることで下痢や感染症を防げることを伝える啓発ワークショップも実施し、サンブル地区の住人50人にアンケート調査を行った事前の現地調査では、半分以上(51%)の人が一年の間に1回以上、下痢にかかわる病気になっていることが分かりました(クリアカンボジア調べ)。



8月には、法制大学国際高等学校のプロジェクトグループSmiRing×認定NPO法人あおぞらとして「高校生の挑戦!カンボジアの村に安全な水と健康を届け、笑顔を増やす!」クラウドファンディングを実施しました。44名の方から50万円を超えるご支援を頂き、9月にサンブル地区やその周辺に住む150世帯に追加で浄水フィルターの導入支援をおこないました。(プロジェクトURL:<https://readyfor.jp/projects/65778>)

年末12月にこれまでの支援評価とこれからも継続して支援を行うべく、現地調査を行いました。2020年2月～2021年6月にかけて、あおぞらで建設した6つの小学校の手洗い場について、メンテナンスがきちんとされているか、清潔で安全な水が供給できているか、手洗い場建設前後で生活習慣や衛生に対する意識が変わったか等を調査、各学校の先生にインタビューを実施しました。

①手洗い場は効果的に活用できています。生徒で水が原因で下痢になった子どもは今のところはありません。水質検査によって、すべての学校の手洗い場で安全な水(大腸菌群が含まれない)が提供できていることが分かりました(蛇口で大腸菌群が検出された学校については、塩素消毒、清掃を実施)。すべての生徒が、安全な水にアクセスできるようになったといえます。

②すべての学校の手洗い場は壊れたところもなく、いい状態でした。いくつかの学校では衛生環境が良くない状態でしたが、今回再指導を行ったので彼ら自身で維持管理する能力はあるといえます。

### 〈生徒へのヒアリングまとめ〉

手洗い場の建設前後で、生徒の手洗い習慣は変わってきています。6つの学校の52人の生徒に会いましたが、90パーセントの生徒がトイレの後に石鹸で手を洗うようになったと回答。10パーセントの生徒は、家庭が貧しく、石鹸を買うお金がないなどの状況で石鹸なしで手を洗っていました。

すべての生徒は、家庭では川からの水を生活用水として利用しており、学校の手洗い場ほどきれいな水は使っていないと回答。飲み水については、40パーセントの生徒は、家庭用浄水器を利用。60パーセントの生徒は、市場から買ってきた綺麗な水を飲んでいました。また、これらのきれいな水は手洗い用には使われていません。すべての生徒が家庭でもご飯を食べる前に手を洗っていると回答しました。

Lor小学校のある生徒は、以前は畑仕事の後に汚い水で手を洗っており、去年は2回ほどひどい下痢を起こしていましたが、今回のプロジェクトを通して衛生に対する知識が付き、今では清潔な水を持って行き、畑仕事の後に手を洗うようになった、と答えました。

今回の調査を通して、いくつか問題はあったが、80パーセントの生徒が衛生意識が高まったのではないかと思います。今後もカンボジアでは水衛生環境支援を中心に活動を進めてまいります。



## タンザニア

TANZANIA



2019年11月に行ったクラウドファンディング、650名の方から1200万円を超えるご支援をいただき、建設したクウェディボマ公立保健センター。

2021年2月キリンディ県保険局長とタンガ州による保健センターの施設、労働環境、人材の確認の視察がありました。

視察後には新たに1名の医師が配属されマラリア検査、薬の提供、駆虫剤の提供、栄養不良児のカウンセリングの利用に1日あたり40名から50名が利用され産前検診のため多くの妊婦さんも受診されています。

タンザニアのプロジェクトは、ワールド・ビジョン・ジャパン様にご協力を得た支援であり、さらには新型コロナウイルスの感染拡大が著しかった国でもあったため、ほかの国の支援と比べても、現地を調査することが難しく、進捗のお知らせが遅れていました。

ご支援いただいていた方々には大変申し訳なく思っております。

今後はワールド・ビジョン・ジャパン様から詳細な報告と打ち合わせを行っていく予定です。



# ラオス

LAOS



ラオスでの活動は2019年より始まりました。2010年より理事の中西が現地での支援活動を行っていた場所でもあります。2019年に理事長の葉田を含めたメンバーで現地訪問した際に、現あおぞらメンバーである萬谷がJOCV(JICA海外協力隊)として郡病院で活動していた縁からラオス事業が始まりました。

世界が新型コロナウイルスの影響を受けた2020年、現地での講習会等を計画しておりましたが、我々の現地渡航の計画も白紙となりました。しかし、中でも出来ることはないかと考え続け、オンラインでの救命救急対応シミュレーションの遠隔講習会を企画しました。2020年秋に、日本国内で撮影した動画を、ラオス語に翻訳しオンラインでも使用可能な教育教材作成を行いました。



そして、その作成した教材を使用し、現地で活動されるJOCVの吉田裕美子さんと協働し、2021年1月ラオスのチャンパサック県病院にて救命救急対応シミュレーションの遠隔講習会を実施しました。この講習会では、現地ラオス人看護師8名が参加し、日本とラオスをオンラインで繋ぎながら、救命救急(人工呼吸や心臓マッサージ)に関するシミュレーションの学習をしま



した。コロナ禍で現地に行くことのできない今、このようなオンラインでの遠隔教育に可能性を感じることもできました。

直接渡航が困難であり先が見えない状況で、あおぞらの柱・強みとする「現地に足を運び、現地の人へ直接かかわる」という根幹の部分が揺らぎ、どのような支援をしていったらよいのか…と悩むことも多い年でしたが、様々な方々にご協力をいただき、遠隔での支援の実現をすることができました。このような遠隔支援の実現でき、日本からのオンラインでの支援の可能性を感じつつも、課題も多くあるのも現状です。今後も現地の方々の声を聴きながらニーズに合わせた支援を行っていきたいと思います。形が変わっても、あおぞらしく、相手の顔が見える支援が引き続きできればと考えております。今後も引き続きよろしくお願い致します。



# 日本

JAPAN



2021年、日本国内ではB.LEAGUE【プロバスケットボールリーグ】京都ハンナリーズ(現 広島ドラゴンフライズ)の寺嶋良選手ご協力のもと、第1回2月27、28日、第2回4月17、18日の計4日間のチャリティーイベントを実施しました。チャリティーイベントでは、募金箱の設置と支援国のラオスの珈琲を使用した「あおぞらコーヒー」の販売を行いました。第一回目のイベントでは、想定をはるかに上回る大好評により即完売。第二回でも、あおぞらの支援者や寺嶋選手のファンの方々に参加いただき第一回を大きく上回るチャリティーイベントとなりました。

その他、寺嶋選手には2021年シーズンで獲得したHERO賞(試合ごとのMVP賞)の寄付を頂きました。チャリティーイベントで募金頂いた寄付金とあおぞらコーヒーの収益をあわせた支援金で、カンボジア サンプル地区の一般家庭40世帯に家庭用浄水フィルターを導入しました。その様子は、日本テレビ系列NEWS ZEROでもご紹介いただきました。ご協力いただいた、京都ハンナリーズ様、寺嶋良選手、誠にありがとうございました。寺嶋選手には、広島ドラゴンフライズに移籍した現在でも継続してあおぞらにご協力いた



だいております。

2021年8月に実施した法政大学国際高等学校プロジェクトグループ“SmiRing”×認定NPO法人あおぞら『高校生の挑戦!カンボジアの村に安全な水と健康を届け、笑顔を増やす!』クラウドファンディングでは50万円を超える支援を頂きました。このプロジェクトは、法政大学憲章を体現した学生・教職員等の取り組みを顕彰する「自由に生き抜く実践知大賞」に、高校生の活動として唯一ノミネートされました。法政大学国際高等学校とは、今後も継続してプロジェクトを行う予定です。



# パレスチナ

PALESTINE



2021年の始まり、あおぞらは『コロナ禍の難民キャンプへマスクを。日本とガザをつなごう』クラウドファンディングを行い、195名の方から5,823,000円のご支援をいただくことができました。

2020年、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて、さまざまな方にご協力をいただき日本国内の医療機関や福祉施設に20万枚のマスクを贈り、カンボジア サンプール地区の小学校へ、現地のカウンターパートと連携し、手洗い場建設支援や各家庭への浄水フィルター導入など、活動の足を止めないようあおぞらとしてできることを行ってまいりました。

そんななか、国連パレスチナ難民救済事業機関 (UNRWA) の保健局長の清田明宏先生とのご縁で、パレスチナ難民へのマスク支援プロジェクトが決まりました。コロナ禍ということもあり、ご支援がなかなか伸びずに不安を感じることもありましたが、プロジェクトが達成できたのは、日頃より応援いただいている皆様あってのことです。

現地での紛争などが原因で、予定よりもマスクの到着が大幅に遅れはしたものの、皆さまのご支援でお届けしたマスクは、現地で利用されている報告を受けています。

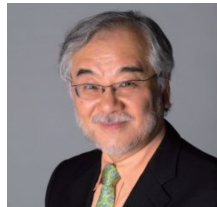


## パレスチナ難民へのマスク支援プロジェクトメンバー



葉田 甲太 はだごおた

1984年5月28日大阪生まれ。  
認定NPO法人あおぞら理事長・医師(総合診療医)・関西学院大学非常勤講師。  
日本医科大学医学部医学科卒業。2014年に赤ちゃんを亡くしたお母さんと出会い、2018年カンボジアに病院を建設。2019年タンザニアにて5万人の命を守る新病院プロジェクトを実施。新型コロナウイルスを受け、カンボジア遠隔手洗い場支援、ラオス遠隔医療教育、パレスチナ難民に10万枚のマスク支援を開始。著書『僕たちは世界を変えることができない。』等 台湾・韓国でも翻訳され累計10万部。



本間 正人 ほんま まさと

1959年8月東京生まれ。  
「教育学」を超える「学習学」の提唱者であり、「楽しくて、即、役に立つ」参加型研修の講師として、アクティブ・ラーニングを25年以上実践し、「研修講師塾」を主宰する。  
京都芸術大学教授・副学長・NPO学習学協会代表理事・NPOハワード・ルーム実行委員会理事。東京大学文学部社会学科卒業、松下政経塾第三期生として入塾、ミネソタ大学大学院修了。国際コーチ連盟 (ICF) 認定プロフェッショナルコーチ (PCC) 資格 (日本人初) を取得。(社)NHK教育TVでビジネス英語の講師などを歴任。



清田 明宏 せいた あきひろ

1961年福岡県生まれ。  
高知医科大学(現・高知大学医学部)卒業。結核予防会・結核研究所に当初勤務。国際協力機構 (JICA) でイメン結核対策プロジェクトに取り組む。その後、世界保健機関 (WHO) に入り、中近東の結核対策、三大感染症の責任者となる。2010年より国連パレスチナ難民救済事業機関 (UNRWA) の保健局長に就任。3,100人の保健医療スタッフをまとめる。2015年第18回秩父宮妃記念結核予防国際協力功労賞受賞。



清水 章弘 しみず あきひろ

1987年、千葉県船橋市生まれ。  
株式会社プラスティー教育研究所代表取締役。私立海城中学高校、東京大学教育学部を経て、同大学院教育学研究科修士課程修了  
創業以来、公教育支援を続けており、青森県三戸町教育委員会の学習アドバイザーや、京都府長岡京市立長岡中学校(文部科学省の研究指定校)の研究アドバイザーを務めてきた。著書は10冊。累計35万部を突破。中国、韓国、台湾、ベトナムでも翻訳されている。  
出演・監修にNHK Eテレ「テストの花道 ニューベンゼミ」など。



滝澤 三郎 たきざわ さぶろう

1948年長野県生まれ。  
UCバークレーでMBAと米国CPAを取得し、1981年国際連合ジュネーブ事務局入局、UNRWA会計課長、UNHCR財務局長、同駐日代表、国連大学客員教授、東洋英和女学院大学教授、国連UNHCR協会理事長などを歴任した。66歳で始めたマラソンが趣味。著書に『「国連式」世界で戦う仕事術』集英社新書など。



協力団体：関西学院大学 国際学部 国際学科 研究演習 関谷武司ゼミ(当時第3、4学年)



## このプロジェクトでマスク支援を行ったパレスチナ・ガザ難民とは

### 【パレスチナとは】

主にアラブ人という民族の住む、地域の名称。

国際連合(United Nations)へ未加盟であるものの、2021年時点で138国の加盟国が国家として承認されているものの、未だ一部の国では、国としての承認が得られていない。

パレスチナでは、アラビア語という言語が主に話されており、イスラム教が主に信仰されている。

### 【難民とは】

「もともと住んでいた母国と呼ばれる国を、とても危険な状況であるということを理由に逃げ出さなければいけないというような状況に置かれている人々、またそれを他の国の人たちがみても同じように危険に思い、守ってあげなければいけないと思うような状況にいる人々」という意味。

「難民」という言葉は「避難してきた人々、避難民」からきている。

1947年に「パレスチナ難民」が生まれて以来、70年以上が経過している。

〈参考文献〉

UNHCR 日本「難民とは」

[https://www.unhcr.org/jp/what\\_is\\_refugee](https://www.unhcr.org/jp/what_is_refugee)



UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)は、難民の人数を「グローバル・トレンドズ・レポート(年間統計報告書)」で発表しています。

「グローバル・トレンドズ・レポート」、2016年時点で、難民数は世界で7950万人を記録しています。これは地球上の97人に1人に値します。そして、そんな「難民」には、国内避難民、庇護申請者と呼ばれる人々が存在します。

### 【国内避難民】

指示や宗教的対立のために、避難したいけど、国内

から抜け出せない、というような板挟み状態にある人のこと。

国内避難の問題は世界規模の問題であり、世界で家を追われる人の3分の2を占めている。



### 【庇護申請者】

母国から逃れ、難民として国際的な保護を求めている人のこと。



パレスチナの存在するシリアは、最も多く難民を発生させている国で、人口の約3分の2にあたる1200万人が難民申請者となっています。



その他、ベネズエラ、アフガニスタン、南スーダン、ミャンマーなど難民を生み出している国は多く存在しますが、これらの国では、政治、歴史、宗教や民族の対立、南北問題、貧困など、様々な事情が複雑に絡みあっており、一国では解決できない、グローバルな問題として、解決に取り組んでいます。

未だ世界に多大なる影響を与えている新型コロナウイルス。このコロナ禍で「STAY HOME」という言



葉を当たり前目にするようになりましたが、「家にいることで大事な人を守る」これは、そもそも「家」があることが前提である話です。しかし、紛争や迫害によって、家を追われた人は2017年時点で約6850万人と言われています。



### 【難民キャンプ】

UNHCRが提供する難民キャンプ。

UNHCRは、難民が発生した場合、難民受け入れ国の要請に応じて、難民の滞在施設(難民キャンプ)や物資、医療などをすばやく援助。迫害や生命の危険から逃れ、国境を越えてきた難民にとって、難民キャンプは、安全を保障し、住む場所や食べ物、水、衣類、医薬



品、生活用品などを提供してくれる場所。

〈参考文献〉

難民キャンプでの生活 - UNHCR Japan

<https://www.unhcr.org/jp/camp>

NHK NEWS WEB

コロナ禍になり耳にするようになった「医療崩壊」という言葉。先進国では、いままで聞き馴染みのなかった「医療崩壊」は、今回マスクをお届けしたパレスチナガザ地区では、日常茶飯事です。毎日のように、空爆や暴力による被害者が病院へ運ばれ、限られた医薬品で、限られた人員で対応しています。

診た患者の少なくとも3分の1は、UNRWAの診療所で対処できる患者ではなかった。腹部手術をした患者や、銃弾で腹部の皮膚がえぐられ、まだ傷口が開いたままの患者もいた。病院が持つ本来のキャパシティの数倍、あるいは数十倍の患者がそこにはいるのだ。病院も診療所も、ガザの医療機関はどこも、能力の限界を超えたところで先の見えない消耗戦を続けていた。

〈引用〉

『天井の無い監獄 ガザの声を聴け!』

清田明宏著より



理事長・総合診療医 **葉田 甲太** Kota Hada

平素よりご支援頂き誠にありがとうございます。  
振り返れば、2021年の認定NPO法人あおぞらは、2020年同様、新型コロナウイルスに翻弄された1年でした。渡航が制限される中で、自分達ができることは何だろうとメンバーと議論を交わし、最終的にたどり着いた答えは、「いま困っている目の前に人に、できることを思いっきりやろう。」というとてもシンプルなものでした。その決断から、パレスチナ ガザ地区へ10万枚のマスクを届けるプロジェクトや、遠隔でラオスへの救命救急講習会、スペシャルサックスサポーターとしてご協力頂いているプロバスケットボール 寺嶋選手とのチャリティーイベント、カンボジア サンプル地区の小学校へ手洗い場建設、寺嶋選手にご支援とご協力をいただいたサンプル地区の40世帯に浄水フィルターの導入、法政大学国際高校の学生さんたちとのプロジェクトでサンプル地区 150世帯に導入した浄水フィルター導入。活動を迷っていた頃からは考えもしなかった活動が出来たのは、何より皆様のご支援があったからこそだと思っています。本当にありがとうございました。

新型コロナ禍にあっても、笑顔を見た時の嬉しさや、あの何とも言えない幸せな気持ちは変わりないと思えた1年でもありました。そしてそんな感情が味わえる様に、困難な状況にあった時こそ、自分たちの原点に立ち戻り、私たちが出来ることを真剣に、命を救い、涙をとめ、笑顔をつくる活動を今後も変わらず続けていきたいと思っています。  
ご支援賜り誠にありがとうございました。



理事・内科医・救急医 **中西 貴大** Takahiro Nakanishi

皆さま、この1年のご支援いただき誠にありがとうございました。  
新型コロナウイルス感染症の影響で現地渡航は難しいままの状態が続いております。そのためなかなかプロジェクトの進捗をご報告できない中で、温かい声をかけてくださるサポーターの皆さまに感謝しております。  
現地の医療や保健、教育の状況は、感染症の流行が落ち着いたとしても変わらないことが予想されます。むしろ国や地域によっては観光業のダメージにより、一層厳しいものになる可能性もあるかと考えております。そのため何かしいいも思いますが、遠隔で可能なプロジェクトを進める、個人の能力を高めるなど、日々できることをしながら、来たるべき時に備えたいと考えております。引き続きご支援よろしくお願い申し上げます。



理事・広報・事務局担当 **大音 雄真** Yuma Ohto

2021年も大変お世話になりました。  
2020年に引き続き、2021年も新型コロナウイルスの感染拡大の影響があり、現地カウンターパートと遠隔での支援が続き、支援状況の進捗をコンスタントにお知らせできないことも多く、支援者様には不安を与えてしまったこともあったかと思っております。それでもあおぞらを信じて、ご支援、応援いただけている皆さまには大変感謝しております。  
コロナ禍での活動も形になりはじめ、メディアで紹介されることもあって、応援いただける皆様が増えていることを感じています。あおぞらのような小さいNPOには、これがとても活力になります。これからも試行錯誤ではありますが、一人でも多くの笑顔を作るために、目の前のできる支援活動を一歩ずつ行なって参ります。  
今後とも、応援とご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



カンボジアプロジェクト担当  
**酒井 つぐみ**  
Tsugumi Sakai

いつも温かいご支援いただき、本当にありがとうございます。  
2020年は、世界中でコロナが広がり、先も見えない不安でモヤモヤした時間を過ごすことが多い1年でした。私が担当するカンボジアでも、首都などがロックダウンされ、現地カウンターパート企業の活動にも、あおぞらの活動にも影響が出たほどでした。  
そんな中でも、私たちにできることを、と始まった小学校の手洗い場建設。感染症対策には、当たり前のように手洗いが大事、と言われていますが、カンボジアの小学校には手洗い場すらない現状がありました。皆さまの支援と現地の方々のおかげで、1年の間にサンプル地区の3校に手洗い場を建設することができ、今も子どもたちや住民の方々から重宝されています。まだまだ、収束の傾向も見えず、しばらくは予断を許さない状況ですが、子どもたちの笑顔を糧に、これからも活動を続けていきます。皆さま、今後ともよろしくお願いたします。



アドバイザースタッフ・小児科医  
**嶋岡 鋼**  
Hagane Shimaoka

この一年のご支援賜りまして誠にありがとうございます。  
新型コロナ感染症に翻弄されている世界、その中で自分たちにできることを探し続けた一年でした。そして次の一年もその状況は変わらないのかもしれませんが、世界を変えることなんかもしかして無理かもしれないけれど、それでも苦しんでいる方々を思い、一つでも多くの笑顔をつくらうという志を強く心に刻みながら前に進みたいと思います。  
私の専門領域は「新生児蘇生法の実践・普及」ですがコロナであろうとなかろうと、未来を担う命は生まれてきます。その命を守らなければ未来はありません。生まれ来る尊い命にチャンスを、そしてご家族に笑顔を、そんなことを思いながらこれからも頑張っていく所存です。  
今後とも温かいご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



アドバイザースタッフ・助産師  
**萬谷 恵実**  
Emi Mantani

もし、日本に生まれていなかったら……。私たちはどんな生活をしているのでしょうか。女性は、何を食べて、何を着て、何を想い、赤ちゃんをどのように産み、育てていくのでしょうか。私は、肌や目の色、文化が違えども、母子の健康を願い、幸せを祈ることはどの国も同じだと感じています。  
2021年度は、コロナ禍の状況に少し明るい兆しが見えかけつつも、まだまだ暗雲が立ち込めている状況。支援して下さる皆様も、恐らくお一人お一人に大変なご苦労があったこととお察しします。そんな中、数ある団体の中から、私たち認定NPO法人あおぞらにご支援を続けてくださってくださっていることに心より感謝申し上げます。  
2021年度は、コロナ禍でもオンラインで支援できる方法を模索し、実際にラオスでの遠隔シミュレーショントレーニングを実施することができました。しかし、まだまだ課題は多くあるのも現状です。一つ一つの課題と向き合いながら、立ち止まらずに、少しでも前に、前に。皆様と共に一歩ずつ歩みを進ませていけたらと思います。  
今後とも「あおぞら」の活動へのご支援・ご協力をよろしくお願い致します。



## 2021年度 活動計算書

【2021年1月1日から2021年12月31日まで】

特定非営利活動法人あおぞら

(単位:円)

科 目	金 額	
I 経常収益		
1. 受取会費		
年会費	0	0
2. 受取寄付金		
受取寄付金	8,137,392	8,137,392
3. 受取助成金等		
受取助成金等	1,000,000	1,000,000
4. 事業収益		
途上国に対する医療支援事業	0	
国際協力のすそ野を広げる啓蒙活動	0	0
5. その他収益		
受取利息	31	
雑収入	2,000,000	2,000,031
経常収益計		11,137,423
II 経常費用		
1. 事業費		
(1)人件費		
人件費計	100,000	
人件費計	100,000	
(2)その他経費		
支払寄附金	5,352,031	
旅費交通費	116,630	
支払手数料	115,300	
諸会費	5,000	
印刷製本費	0	
講師謝金	73,687	
通信費	18,711	
雑費	2,365	
その他経費計	5,683,724	
事業費計		5,783,724
2. 管理費		
(1)人件費		
役員報酬	930,000	
人件費計	930,000	
(2)その他経費		
地代家賃	274,000	
会議費	15,780	
通信運搬費	59,604	
消耗品費	38,280	
旅費交通費	57,030	
委託費	1,303,610	
租税公課	500	
雑費	3,784	
その他経費計	1,752,588	
管理費計		2,682,588
経常費用計		8,466,312
当期経常増減額		2,671,111
III 経常外収益		
1. 固定資産売却益	0	
経常外収益計	0	0
IV 経常外費用		
1. 過年度損益修正損	0	
経常外費用計	0	0
税引前当期正味財産増減額		2,671,111
法人税、住民税及び事業税		3
当期正味財産増減額		2,671,108
前期繰越正味財産額		742,540
次期繰越正味財産額		3,413,648



命をすくい、涙をとめ、笑顔をつくる。

5th  
ANNIVERSARY

2017-2022

5周年記念誌

## 5周年を迎えてのご挨拶

認定NPO法人あおぞらは、皆様のおかげで今年の7月で設立5周年を迎えることができました。

変わらずコロナ過ではありますが、新たに栃木事務所を設立したことで、よりスムーズな活動を行うことができました。

いま、あおぞらの活動が止まることなく続けることができているのは、ご支援、ご協力、応援いただいている皆様あつてのことです。心より感謝申し上げます。

5周年というと、「まだたったの5年」と思われる方もいれば、設立当初より応援いただいている方は、「もう5周年か」と思うかもしれません。

この5年のうちおよそ半分の活動期間がコロナ過ですが、ご協力いただいている皆様のおかげで、意義のある支援活動がなんとか行えています。

カンボジア サンプール保健センターの建設という大きな支援から始まったあおぞらは、3年目を迎える前にタンザニア新病院建設プロジェクトという「1000万円」を超えるクラウドファンディングまで達成し、あおぞらの支援活動が形になり始めたとき新型コロナウイルスの世界的感染拡大によって、まさに「翼をもがれた」状態になりました。支援者との距離が近く、それでいてあおぞらのメンバーが頻繁に直接現地に出向いて現状を届けるというあおぞらの強みが潰されました。

メンバー間の中でも、「もう活動は厳しいか」「いったん足を止めようか」という話もありました。けれど、いま、あおぞらのむこうがわにはコロナ過にも関わらず、きれいな水で手を洗うことさえできない子どもたちが大勢いて、そして何よりご支援いただいている皆様の思いを無駄にはいけなと思いました。このコロナ過でできる目の前のことをやる。そんな想いであおぞらは再び「小さな翼」を広げはじめました。

あおぞらの背中を押してくれたカンボジア手洗い場プロジェクトの「ConHeart」や、メンバーが全力で動いてく

れた「認定NPO」の認定。

メンバーが離れたり新たなメンバーが加わったり、あおぞらの中でもいろんな試行錯誤がありました。やまない雨はない。いつか、晴れやかな“あおぞら”の下で子どもたちの笑顔を見たい。そう信じて今があります。

2022年4月、およそ2年半ぶりに支援先のカンボジア サンプールに渡航しました。2年半ぶりに訪れたカンボジアで僕は、子どもたちの笑顔を見て「嬉しい」という思い、そしてそれ以上に「楽しい!」と思いました。それも口に出すほどに。

コロナ禍になってオンラインでやり取りすることが当たり前になり、必要な情報はほとんど日本にいて受け取ることができます。しかし、現地に足を運べなくなったことで「本当に子どもたちのために役立っているのか」という確信は持てていなかったのだと思います。

そんな世界の状況下でありながら、少なくとも、サンプール地区の子どもたちの保健衛生は向上しました。その変化は世界にとってはほんの微々たることかもしれませんが、それでもそんな状況を日本の学生や様々な方に伝える事で、こんな新型コロナウイルスの感染拡大や戦争で、国際協力の難しい時代だからこそ、世界をほんの少しだけ良くしていきたいと思います。

今後も新型コロナウイルスの状況を見ながら、支援活動の継続と拡大ができればと考えています。

いつもあたたかいご支援ありがとうございます。今後も皆さんの力をお貸しください。僕たちだけでは変えることができない世界を、皆さんと一緒に変えていきたいと思っています。

これからも認定NPO法人あおぞらをよろしく願い申し上げます。

認定NPO法人あおぞら 理事長

**葉田 甲太**

2017 - 2022

今までも、これからも、一人でも多くの「笑顔」のために。あおぞらは今年、5周年となります。皆さまのおかげで、ここまで活動を続けることができました。これからもあおぞらは歩み続けます。



# Aozora Story

あおぞらの歩み



**CAMBODIA**  
水衛生環境改善プロジェクト  
サンプル地区の小学校にて洗い場を建設



**TANZANIA**  
クラウドファンディングを経て  
クウェディボマ公立保健センターを建設



**LAOS**  
赤ちゃんを助けるための活動  
新生児蘇生法講習



**PALESTINE**  
ガザ地区の医療従事者に10万枚のマスクを届ける  
マスク支援プロジェクト

## 2005年 春

当時大学2年生だった理事長の葉田甲太が渋谷の郵便局で、「150万円あればカンボジアに小学校を建設することができます。」というパンフレットを見つけました。

## 2008年3月

書籍「僕たちは世界を変えることができない。」を自費出版にて発売。

## 2010年

小学館から書籍「僕たちは世界を変えることができない。」を発売。

## 2011年9月

向井理主演で映画「僕たちは世界を変えることができない。」を公開。

## 2006年 夏

色々な方のおかげで、なんとか150万円を集め、カンボジアのコンポントム州BENG村に小学校を建設しました。

## 2013年 夏

その後も学生国際協力団体Michiiiと連携しながら、小学校に溜池の設置などを行いました。

## 2014年

小学校を建設したカンボジアの小学校の村で、生後22日目で赤ちゃんを亡くしたお母さんと出会いました。

## 2015年 冬

赤ちゃんを亡くしたお母さんと再び出会い、赤ちゃんが亡くなった話をされる時には、泣いていました。何かできないかと模索しましたが、ほとんどが、うまくいきませんでした。

## 2016年 春

長崎大学熱帯医学講座で、どうすれば母子の命を救えるか学び、国際NGOワールド・ビジョンと出会いました。

## 2016年 夏

小さな力のない自分が行動した所で、世の中の何が変わるのだろうか、カンボジアの病院建設プロジェクトに対して迷っていた時、離島で勤務していた際に、女子中学生と出会いました。その子は「僕たちは世界を変えることができない。」の映画を見て、医師になりたくさんの人を救いたいと語ってくれました。  
**たとえ自分の力が微力でも、自分の行動がきっかけで、誰かが新たな行動を起こしてくれるかもしれないこと。そして、その力が合わされば、時に大きな力になるかもしれないこと。**  
恥ずかしながら、そんなことを、何歳も年下の日本の中学生の女の子が、逆に教えてくれました。

## 2017年2月

国際NGOワールド・ビジョンとの共同事業として、カンボジアでのサンプル保健センター建設支援事業を開始。

## 2017年 夏

NPO法人あおぞら設立。

## 2018年1月

約300人の方にご支援頂き、4,837,000円のクラウドファンディングを達成。

## 2018年5月

国際NGOワールド・ビジョンの事業地にあるタンザニア クウェディボマ保健センター建設予定地域を視察。

## 2018年 夏

カンボジア サンプル保健センター開院式、新生児蘇生法講習会実施。

## 2018年7月

カンボジア サンプル保健センター、20000Lの雨水貯水タンク完成。

## 2018年10月

カンボジア サンプル保健センター、20000Lの貯水タンク完成視察。ヒアリングを行う。

## 2018年11月

タンザニア クウェディボマ保健センター建設プロジェクト再度視察。国際NGOワールド・ビジョン、現地行政、住民と協議し、支援内容を合意。

## 2019年3月

カンボジア サンプル保健センター 2回目の新生児蘇生法講習会を実施。

## 2019年5月～

国際NGOワールド・ビジョンとの共同事業としてタンザニア クウェディボマ公立保健センター建設プロジェクト開始。

## 2019年6月

ラオス パークグム郡病院にて新生児蘇生法の講習会予定。

## 2019年9月～11月

「5万人の命を守る タンザニア病院建設プロジェクト」クラウドファンディング実施。

## 2019年10月

ラオス サイニャブリ県ケンタオ郡病院にて新生児蘇生法講習会を実施。

## 2019年11月

タンザニア クウェディボマ公立保健センター開院。  
葉田甲太 著「僕たちはヒーローになれなかった。」発売。

## 2020年4月

カンボジア サンプル地区SRAH CHHUK小学校に手洗い場建設。

## 2020年5月

「20万枚のマスクを「あの人に」とどけるプロジェクト」開始。

## 2020年7月

「手洗い場でコロナを防ぎ、カンボジアの子どもたちの未来を守る」クラウドファンディング実施。

## 2020年8月

カンボジア サンプル地区サンプル小学校に手洗い場を建設。

## 2020年9月

カンボジア オンラインスタディツアーを実施。

## 2020年10月

カンボジア 一般社団法人ソーシャルコンパス様SocialCompassご協力のもと、現地の子どもたちへアニメーションワークショップを実施。

## 2020年11月

認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)に認定。

## 2020年12月

カンボジア サンプル地区Ta sal小学校に手洗い場を建設。  
「コロナ禍の難民キャンプへマスクを。日本とガザをつなごう」クラウドファンディング実施。

## 2021年1月

ラオス 救命救急対応シミュレーション遠隔講習会を実施。

## 2021年3月

カンボジア サンプル地区 Tmor dorb小学校に手洗い場を建設。

## 2021年4月

カンボジア サンプル地区 Kror bauv小学校に手洗い場を建設。  
パレスチナ ガザ地区へマスク寄贈。

## 2021年5月

タンザニア 州による保健センターの視察が完了。

## 2021年6月

プロバスケットボールチーム 京都ハンナリーズと「寺嶋良選手×認定NPO法人あおぞら」第二回チャリティーイベント実施。  
カンボジア サンプル地区 Lor小学校に手洗い場建設。  
プロバスケットボール寺嶋良選手 京都ハンナリーズご協力のもと、カンボジア サンプル地区の40世帯へ家庭用浄水フィルターを導入。

## 2021年8月

「高校生の挑戦!カンボジアの村に安全な水と健康を届け、笑顔を増やす!」クラウドファンディング実施。

## 2021年9月

カンボジア サンプル地区の150世帯へ家庭用浄水フィルターを導入。

## 2021年12月

栃木事務所設立。

## 2022年6月

JICA基金活用事業としてラオス保健大学にて教員向けの新生児蘇生法講習会を実施。

## 2022年7月

あおぞら設立5周年を迎える。

# Aozora 5th anniversary special interview article



認定NPO法人あおぞら5周年記念 特別対談

## 僕たちは、あおぞらは、歩み続ける。

理事長・総合診療医

# 葉田 甲太

Kota Hada

アドバイザー・スタッフ・小児科医

# 嶋岡 鋼

Hagane Shimaoka

2017年に産声をあげた認定NPO法人あおぞら。理事長の葉田甲太と、その葉田が医師として、スタッフとして全幅の信頼を寄せる嶋岡鋼の特別対談が実現しました。あおぞら設立から5年、それぞれの活動を経て二人は今、何を思うのか。コロナ禍で国際情勢が一変したとき、あおぞらはどのように乗り越えたのか。独自の視点でこれまでのおおぞらと、これからのあおぞらを語っていただきました。

コーディネーター 大音 雄真 Yuma Ohto 対談場所 和音 (栃木県宇都宮市徳次郎町7-3) 取材・執筆 村松 隆太 Ryuta Muramatsu

## 二人の出会い、それぞれの第一印象

**葉田** 当時僕は新生児蘇生法と一緒にやってくれる人を探していたんです。小児科医・新生児科医で新生児蘇生法を教えられて、英語ができて海外途上国支援の経験があり、その上無給で一緒にカンボジアに行ってくれる人という条件で(笑)。この条件ではさすがに無理だろうなと思っていたんですが……。

**嶋岡** 共通の知り合いの先生が甲太に僕を紹介してくれたんだよね。甲太が僕になが〜いメッセージを送ってきた。僕がどんな雰囲気の間人か知らないから、大先輩のお医者様にお願いをするようなメッセージだった(笑)。

**葉田** あのとときの僕は医者として自信がなかったんですよ。「先生助けてください」ってすがりような気持ちで。とにかく必死だったんですから。

**嶋岡** 初めて会ったとき、思ったより理詰めのタイプで、喋る内容もきちんとしている印象だったな。メッセージで思いの深さもよく分かったし、興味もあった。若いのによく頑張ってるなと思ったよ。

**葉田** あっさりと僕の協力要請にOKしてくれて、逆に最初は信用できなかったんです(笑)。だってこんな条件で承諾してくれる人は日本に1人か2人しかいないと思ってましたから。なんでこの人はあっさり協力してくれるんだ? ありえないって(笑)。

**嶋岡** そのときはまだ僕という人間を甲太は知らなかったからね。新生児蘇生は自信があったから、「いいから任せろ」としか思っていなかったよ。甲太は最初「ちゃんとやってくれるのかな?」と思った?



**葉田** もちろんやってくれるとは思ってましたが、それよりも「なんなんだ、なぜこの人は……?」ですよ。でもそれが徐々に無くなり、嶋岡先生への理解度が深まると、今度はこの先生の情熱と技術を受け止めるだけのフィールドを用意できないんじゃないかという心配が生まれました。それができないと申し訳ないという焦りはありましたね。

## 支援をしてくれる皆さんについて

**嶋岡** 活動に協力してくれる方々、寄付やマンスリーサポーター、クラウドファンディングでご支援いただいた方々(以下、総括してサポーターと表記)には感謝しかないね。

**葉田**ほんとにそうですね。だからサポーターにはもっと報告をしなくてはいけないと思っています。

**嶋岡** とても温かい目で見守っていただいているよね。あおぞらの特徴として、サポーターとの近さがある。

**葉田** 存在が近いんですよ。よくお声掛けいただけます。新規サポーターとのつながりも、もっと深めていきたいですね。

**嶋岡** 現地でやっていることを見てもらいたいと思っているんだよね。

**葉田** 確かに皆さんの支援が確実に現地の支援になっている現実をもっと見てもらいたいですよね。“認定”NPO法人になれたのもサポーターのおかげで基準が満たせたからこそです。認定が受けられるのは全体のNPO法人のわずか2%以下なんですよ。

**嶋岡** やっぱり現地での活動を見てもらうには配信



が一番いいのかもね!

**葉田** 現地の子どもたちの笑顔を見てもらいたいですよね。今度企画してみましょうか! やりたいことが広がるあおぞらってほんとに楽しいですね。

**嶋岡** 自分たちがやりたいことをやっているんだけど、ちゃんとそれが支援につながっている自信も結果もあるから楽しいと思えるんだよね。

**葉田** 全世界を変えてしまうような大きい支援には及ばなくても、僕たちはサポーターと一緒にできることが確実にあります。小さい支援でも意味はあるんです。むしろ小さいからこそ、身近で細やかな支援に手が届く。常にそんな意識で僕たちはやっています。

**嶋岡** 甲太は「そこにいるあの子の笑顔が見れるように」とずっと言っているもんね。サンプルの病院も、ずっと放置されていたところに甲太が介入して建て替えた。ConHeart(サンプル地区の小学校に手洗い場の建設を行うプロジェクト)も子どものことを考えてやり遂げたよね。

**葉田** すごく感動したことがありました。完成した手洗い場を見に行ったとき、僕が来ていると気づかずに子どもたちが手を洗っていたんですよ。僕のことなんか関係なく、それが日常になっていることが嬉しかったな。

**嶋岡** それはほんとうに素晴らしいね。僕もぜひ見に行きたいな。

## 5年間で達成できたこと

**葉田** 命をすくい、涙をとめ、笑顔をつくる。それを実行し結果を出してきたことがまずひとつ。そしてたくさんの人たちにあおぞらの支援を語ることで、あおぞらのことをわかってもらうことができたかな。

**嶋岡** 特に伝えて広めていくことは甲太の役割だね。あおぞらとして掲げている3つのキーワード「とどける」「ささえる」「つたえる」、これはできたんじゃないかなと思う。

**葉田** それが出来たってすごいことですよね。僕たち医者には直接命を救うことができるけど、「私にはそれはできないから」と言う人もいます。でも、例えば栄養士



とか子ども食堂でご飯を作ることが好きな人は子どもを笑顔にできる。それって広義の意味では命を救っていると思うんです。生命的な部分ではなくて精神的な部分で命が充実するというか。

**嶋岡** あおぞらはメンバーとサポーターそれぞれが果たせる役割の中で広い意味で命を救ってきたという自負はあるよね。そこはコロナ禍でもブレずにやってきた。それは自慢できることだよ。

## コロナ禍を経てあおぞらが思うこと

**嶋岡** 思いがけない出来事だったな。現地に行けなくなるなんて想定外だった。

**葉田** 活動できないからサポーターに報告ができなくなるし、そもそも国民の生活が苦しくなって、サポーターが離れてしまうと思いました。

**嶋岡** やれるはずのことが出来ない状況で、もどかしさ悔しい思いをしたよね。でも結果的にその気持ちがあおぞらを更に成長させてくれたのかな。

**葉田** あおぞら内でディスカッションしましたね。暗い未来しかないと思っていたから、あと2年でたまたまうかなんて、そのレベルの話し合いまでいきましたからね。

**嶋岡** でもこのディスカッションが重要だった。いろいろな議論のなかで、最後に絞り出したものが「やれることを全部やろう」だったんだよね。

**葉田** サポーターに対して、やっていないことをやっていると報告してお金をもらうようなことだけは絶対にしなくなかった。だから「やれることは全部やる」と思えるようになりましたね。

**嶋岡** 今までは目立つ事業を主にやってきたけど、細かく地道にという考え方に変わったね。地味だけど、でもすごく大事なことに目を向けるというか。

**葉田** あおぞらも成長していて、自信がついたんでしょうね。直接命を救うことだけではなく、やれる範囲でそれにつながる何かはできるんだって。

**嶋岡** 僕のなかでは甲太が持ってきてくれたマスクプロジェクトがその先駆けだったよ。マスクを届けるという行為の裏側にあるものが、本当に僕たちが届けた



認定NPO法人あおぞら 栃木事務所前にて撮影 葉田甲太(左)、大音雄真(中)、嶋岡鋼(右)

かったものだから。「誰かの笑顔のために」という根拠があって、そのために僕たちができることを全部やる、動き続けるという意思表示にもなったね。

**葉田** いろいろなことをやってきて、「NPO」という芯にどンドン肉付けがされていった感じですね。これだけやったという満足感があり、それを自信に変えることができた。あおぞらは、どんな方向に進んでも再び立ち位置に戻れる場所だから、なんのためにこの活動をしているのかを思い出させてくれるんですよ。

**嶋岡** コロナだから新しい国際支援のやり方とは言え、根本は変わらないもんね。

**葉田** 結局は誰のためにやるの? ということですよ。こうしてまた海外に行けるようになり、カンボジアに行くとやっぱりすごく楽しいんです。その地域の市長や区長にお会いすると、「あおぞらには感謝してもしきれない、ありがとうという言葉だけじゃ足りない」と言ってくれます。やはりあおぞらは歩みを止めてはいけなないと、気が引き締まる思いがあります。

## あおぞらのこれから

**葉田** 新生児蘇生でデバイスを使った連携支援、これをJICAと一緒にラオス以外でもやっていきたいですね。

**嶋岡** 僕はあおぞらとして、もつとたくさんの方々で現地に行きたい。特に若い世代や子育てが一段落した世代と。現地で支援した設備の利用者と会うと支援してよかったと心から思うはずだから。世界観が変わると思う。そこがすごく大切なことなんだよね。

**葉田** それやりたいですね! 純粋に嬉しい楽しいですよ。あおぞらは未来に対して支援しています。赤ちゃん子どもたちの未来がどう変わっていくのか見ていきたいですね。

**嶋岡** 甲太はカンボジアで未来が見えたんじゃない?

**葉田** 子どもってかわいいし、希望だからできるだけ明るい未来に変えてあげたい。そのためのあおぞらでいたいんです。

**嶋岡** 僕は単純に赤ちゃんにチャンスを上げたくて、そこをフォーカスしていきたい。小児科医・新生児科医という専門性の中で何が出来るかもっと考えていきたいと思ってるよ。

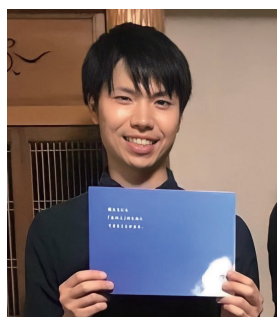
**葉田** 嶋岡先生をはじめ、支援してくれる皆さんのフィールドをどう広げていくか、作っていくかがこれからの僕の役割だと思っています。

**嶋岡** 甲太はこの5年でたくさん見て経験してきたから、きつといいひらめきが生まれるよ。もう変える力は持っているんだから、それを実行できたらきつと世界はよくなるよ。



## あおぞら5周年に想いを寄せて Congratulations on Aozora 5th anniversary.

認定NPO法人あおぞら5周年に際し、あおぞらをご支援いただいております皆さまから温かいメッセージをいただきました。皆さまからのご支援、心より感謝申し上げます。あおぞらは皆さまのご支援を確実に現地に届け、一人でも多くの笑顔のためにこれからも歩み続けます。



5周年記念誌シルバーサポーター  
**佐藤 拓也**

あおぞら5周年おめでとうございます。私は2019年頃にあおぞらの広報活動の一環であるパンフレット作りに参加させていただきました。そのときからあおぞらの活動を追い続け、あおぞらファンとして現在まで応援しております。当時のパンフレットは現在と異なり手作業でページを貼り付けて作成していました。メインの慈善活動だけでなく、広報活動に対してもきめ細やかで丁寧に実施されているのに対して、驚きと感銘を受けたのを今でも覚えております。

また、あおぞらのメンバーや参加されていた方々は、とても誠実で、明るく、爽やかな印象をうけ、素敵な団体はメンバーも素敵であるなと思いました。一緒に活動できたことは今でも私の誇りです。

今後もファンとして、あおぞらの活動を陰ながら応援しております。



5周年記念誌シルバーサポーター  
**川田 尚輝**

私個人では発展途上国を助けたいという気持ちは持ちつつも、実際に何もできていないという状態が続いておりました。そんな時にあおぞら様と出会い、微力ながら実際に寄付という形で支援を行わせて頂きました！

私一人ではどうにもできませんが、あおぞらという団体に協力することで、発展途上国の方々に少しでも豊かに生活を送って頂けることを願っております。

今後も微力ながらサポートさせていただきます！



あおぞらマンスリーサポーター  
5周年記念シルバーサポーター  
大学職員・大学院博士後期課程在学  
**松田 優一**

5周年おめでとうございます！

私は、あおぞらの創設以来マンスリーメンバーとして応援しています。「僕たちは世界を変えることができない。」の映画に魅せられ、葉田さんの講演会で心打たれたことがきっかけでした。寄付という形ではありますが、世界の誰かの笑顔にほんの少しでも貢献出来ることを嬉しく思っています。

今もなお悲しいニュースが国内外で流れる日々ではありますが、あおぞらの活動が世界を少しずつ変えると信じています。

皆様と一日も早くご一緒できる日が来ることを願ってこれからも応援し続けます。



ConHeartプロジェクトメンバー  
**田嶋 優香**

認定NPO法人あおぞら様、5周年おめでとうございます。

私は、2020年にあった「僕たちはヒーローになれなかった」のトークセッションで葉田甲太さんと出会ったことをキッカケにカンボジアの僻地の小学校に手洗い場を設置する「ConHeart」プロジェクトに参加させていただきました。あの時に考えたこと感じたこと、学んだことは今の私の力になっています。「命をすくい、涙をとめ、笑顔をつくる」私は誰かの命を救うこともできないし、何もできない。何もできないけど、誰かを笑顔にすることは誰でもできる。自分自身の身近なところや今も通わせていただいているカンボジアの村の子供たちを少しでも笑顔にできる人に、人に寄り添える人になります。

命をすくい、涙をとめ、笑顔をつくる。これからも沢山の笑顔をこれから先の未来につなげてください。応援しています。



5周年記念ゴールドサポーター  
ウェブエンジニア  
**澁田 寛樹**

5周年おめでとうございます。

私があおぞらの活動を知ったのは「ConHeart」というカンボジアに手洗い場を支援するプロジェクトでした。友人がそのプロジェクトに参加していたことからクラウドファンディングで寄付という形で支援させていただきました。それからの縁で、微力でもあおぞら様を通して支援活動に携われることをありがたく思っています。

今後も陰ながらサポートさせていただきます！

## あおぞら5周年に想いを寄せて

Congratulations on Aozora 5th anniversary.



マンスリーサポーター  
5周年記念ゴールドサポーター  
**手嶋 雅人**

あおぞらさん、5周年おめでとうございます。

僕自身、あおぞらを知るまでは、カンボジアなどがこういう状況で大変だなと感じていたものの、正直他人事のように考えていました。ですが、友人があおぞらさんに関わっていることを知り、どういった活動をしているのか話を聞いて、自分でも興味を持ち始め、いろいろ調べていたら、自分が思っていたよりも大変な生活をしている人たちがいることを知りました。そこでやっと自分もそういった人たちのために力になりたいと思い、マンスリーサポーターという形で関わらせていただきました。

自分が支援することで辛い思いをしながら生活している人が、少しでも豊かな生活に変わるよう僕もあおぞらさんを通して今後も協力していきたいともいます。



スペシャルサンクスサポーター  
プロバスケットボール選手  
**寺嶋 良**

認定NPO法人あおぞら様、この度は5周年おめでとうございます。

日頃から、「誰かの為に何かをしたい」と言う気持ちは持っていますが、なかなか行動に移すことができません。僕もそのうちの1人でした。しかし、あおぞらさんとの出会いによって思いを形にしてもらい、その時に大きな感動と幸せを実感しました。これからもあおぞらさんの手助けも受けながら、「誰かの為に」という思いを形にしていけたらと思っています。

10年後、20年後も不安や悲しみで曇ってしまった表情を一つでも多く、あおぞらのような笑顔にしていって下さい。僕もあおぞらのような笑顔を周りに感染させていきます！



マンスリーサポーター **辻 直子**

設立5周年、おめでとうございます。

5年という月日、あおぞらの活動を通して積み上げてこられた時間、忘れられない出来事、数多くの経験と実績を重ねてこられたことに敬意を抱かずにはいられません。

これからも一人でも多くの笑顔に出逢えるように願って！

サポーターとして日々の活動を応援しています。



5周年記念シルバーサポーター **野中 美希**

学生の頃にカンボジアでの保健センター建設事業に同行し、4年が経ちました。

社会人になり、世界の状況は大きく変わり、自分自身何もできない毎日ではありますが、認定NPO法人あおぞらの皆様が精力的に活動されている姿に元気をいただいております。

皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。



マンスリーサポーター **小玉 薫希**

ただ、ものやお金を渡す募金やボランティアではなく、現地に寄り添った、持続可能な支援の形に共感しました。どこで産まれても希望を持って生きていける人が1人でも増えて1人でも多くの笑顔が救われる事を願っています。

寄付という形で関わらせて頂き感謝申し上げます。



マンスリーサポーター  
5周年記念ゴールドサポーター **星 正憲**

5周年おめでとうございます。友人があおぞらさんの活動に携わっており、それがきっかけで知りました。

ほんの少しでも、遠く離れていても自分のできる事で途上国で困っている方のお役に立てたらと思います。



アニバーサリーサポーター  
有限会社オート商会 代表取締役  
和音

**大音 剛**

5周年おめでとうございます。

あおぞらの理事でもある息子の大音雄真から、当時のあおぞらの支援活動を知り、葉田甲太理事長の著書で2011年には映画化もされた「僕たちは世界を変えることができない。」を読んで、感銘を受けました。カンボジアに学校をつくるノンフィクションの物語でしたが、今では世界の僻地地区への医療施設の建設や医療支援、コロナ禍では衛生面からため池を使う地域などに手洗い場を建設するなど、世界中の子供たち、そしてそのお母さんたちの笑顔をいっぱいしています。

当店和音も微力ながら、笑顔で溢れる世界に変えられるよう、「認定NPO法人あおぞら」の活動を応援、支援していきます。



アニバーサリーサポーター  
3daysクレープ代表

**荒川 裕子**

あおぞらさん、5周年おめでとうございます。子どもが嶋岡先生にお世話になっています。息子は不妊治療でやっと授かった子で、出産は緊急帝王切開で誕生し、生後2日後にチアノーゼで緊急搬送されました。右足は先天性内反足の為、治療を続けてきました。

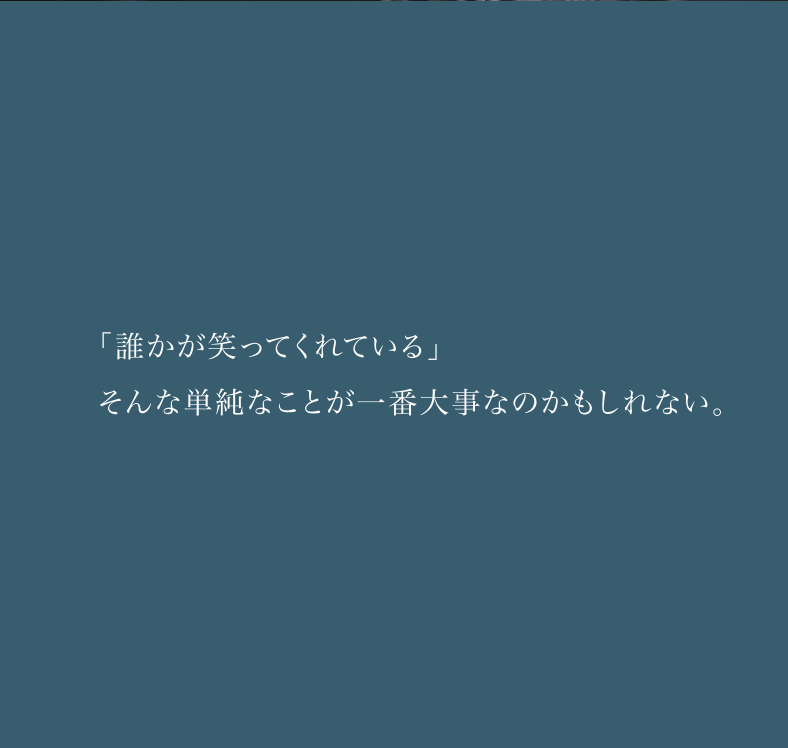
医療には、本当に感謝しきれないくらいお世話になっているので、今回のあおぞらの支援を通して少しでも恩返しと、微力ながら子どもたちの未来に繋がるご協力ができたら嬉しいです。



「誰かのために何かをする喜び」は、  
ときとして「自分のために何かをする喜び」を上回る。



現実を変えてくれたのは、  
誰かのために行動した時だった。



「誰かが笑ってくれている」  
そんな単純なことが一番大事なかもしれない。



人を幸せにすることは難しくても、  
不幸にすることなら減らせる。



世界を変えるのは、きっとお金でも、政治でもなく、  
人の心なんだと思う。



「そんなことをしても意味ないよ」と笑う人がいる。  
だけど、どれだけ小さい行動だとしても、  
目の前の人を笑顔にすることなら、きっと貢献できる。





葉田甲太著  
書籍紹介

# BOOK INFORMATION

Written by Kota Hada

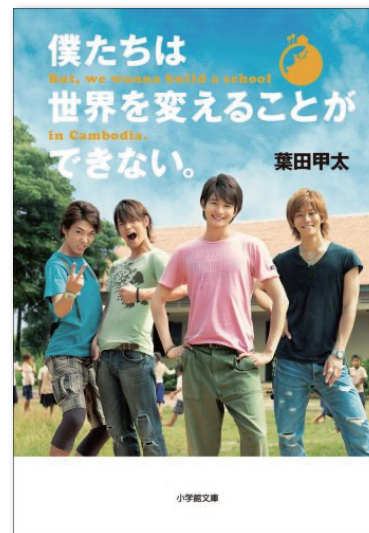
疑問を抱き、葛藤に苦しみ、苦勞を背負い、それでもなお一人でも多くの笑顔のためにその道を歩む。

この歩みを止めてはいけないと葉田は言う。あおぞらはこれからも歩み続けると。

この原動力はどこから生まれるのか。なぜそこまでできるのか。

その答えを実体験を元に葉田自身が綴っています。飾らない真実がここにあります。

葉田の歩みを知り、あおぞらの原点を知ること、きっと読者の心に勇気の火が灯ると信じています。



## 僕たちは世界を変えることができない。

But, we wanna build a school in Cambodia.

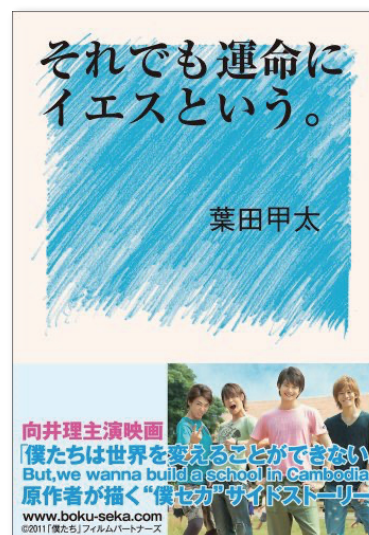
2011年向井理主演、窪田正孝、松坂桃李、柄本祐、等出演で映画化し大ヒットとなった同名映画の原作ノンフィクション。

当時、医大生だった葉田は受験勉強をして大学に入ったものの平凡な日常に疑問を抱いていた。

そんな葉田が、「150万円を寄付すればカンボジアに小学校が建つ」というパンフレットを偶然見かける。

「これだ!」と感じた葉田は、仲間を募り、クラブでのイベントを企画して、何とか150万円の捻出をはかろうとする。それと同時にカンボジアにも渡航し、売春宿で働く少女たちやエイズの問題、地雷除去やゴミ山で暮らす人たち……などの過酷な現実に触れ、自分たちとのダメさ加減と正対することになる。

「誰かのために何かをする喜びは、自分のために何かをする喜びを上回るときがある」  
今あるあおぞらの原点ともいえるストーリーがここにある。



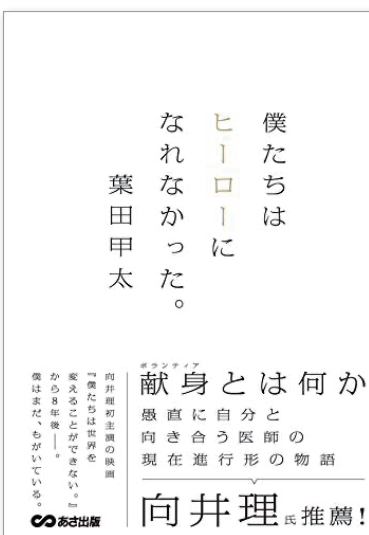
## それでも運命にイエスという。

毎年1万人以上の人間がエイズで死亡しているカンボジア。HIV母子感染によって15歳まで生きられない子どもたち。親のHIV治療費を稼ぐため毎晩1回5ドルで好きでもない男とセックスする少女。政府により強制移住させられたHIV村、末期のエイズ患者が集まるホスピスなど……。

前作『僕セカ』でも描かれたエイズ病棟での患者との出会いと別れをきっかけに、カンボジアのエイズに関するドキュメンタリー映画『それでも運命にイエスという。』を製作した著者が、その活動の一部始終を綴った魂の記録。

日本で全国上映会を行うまでの様子も写真入りで収録。熱い衝動に突き動かされて始めたものの、何度も「無理なんじゃないか?」と不安になり、逃げ出しそうにもなった。

しかしさまざまな思いが交錯し、見て見ぬふりだけはしたくなかったという心の葛藤などがあるままに綴られている。読んだ人の「心が動く」を超えて「体が動く」きっかけに、という願いが込められた真実の物語。



## 僕たちはヒーローになれなかった。

映画化から8年。映画化後、有名人のようにチヤホヤされた一方で、建設したカンボジアの小学校と村を再訪するとそこには生後22日目の赤ちゃんを亡くして泣いているお母さんがいた。

本当の幸せ、自分らしい人生と向き合いながらカンボジアに病院を建設し、世界の果てに医療を届ける活動を広げるまで。

「人を不幸にすることなら滅らせるかもしれない」「きっと僕は弱いから行動するんだ」「ポキッ 心が折れる音が聞こえた」「人と比べる幸せはやめたんよ」「What are you working for? あなたは何のために働いていますか?」

映画化『僕たちは世界を変えることができない。』から8年後、僕はまだ、もがいている。

何かに迷っている人の心にこそ届く一冊。



な ヒ 僕  
れ ー た  
な ー ち  
か ー は  
っ に  
た 。  
葉 田 甲 太

献身とは何か  
徹直に自分と  
向き合う医師の  
現在進行形の物語

向井理氏推薦!

設立5周年並びに記念誌へのご協賛をいただき心より御礼申し上げます。

### Anniversary Supporter

アニバーサリーサポーター



町の小まなおみやげ雑貨屋まん  
和音 since2008

栃木県の東北道宇都宮I.C.入口から車で1分のところに位置するセレクトショップ。  
宇都宮餃子で有名な『宇都宮みんな』の正規代理店、寒天で有名な『かんでんぱぱ』の正規代理店として運営のほか、益子焼、日本遺産『大谷石』の雑貨品などを販売している。  
2018年からCoffee Standをオープン。現在は、本店、道の駅きつねがわ支店を営業している。

〒321-2116 栃木県宇都宮市徳次郎町7-3 東北自動車道宇都宮インターを降りて1分 TEL.028-665-2953  
<https://www.waon-papa.com/> Instagramアカウント:@waon\_papa

Compass Point – since1987

## ブランディング&デザイン Branding & Design

ブランディング&デザイン

デザインに経験とノウハウを添えて、広告運用からその活用方法までアドバイスいたします。

コンパス・ポイントは広告の企画・制作、書籍の編集・発行、知的好奇心がある人のためのサイト「chinoma」の運営など、広告・出版会社らしくないアプローチで、独自の事業を展開しています。

「なにを伝えるのか」「どのように伝えるのか」、伝えるべきことを簡潔・的確に表現する。

1987年の創業以来、コンパス・ポイントは広告の専門家集団として実績を重ねてきました。

株式会社コンパス・ポイント 〒321-0155 栃木県宇都宮市西川田南1-29-7 <https://www.compass-point.jp/>



compass  
point

### Anniversary Supporter

アニバーサリーサポーター



生地に米粉を使用、モチモチ食感でクリームのごろめ。

## 3DAYSクレープ

キッチンカー、移動販売クレープ店。

クレープ生地には栃木県矢板市産のコシヒカリ米粉を使用。地元の旬の美味しいフルーツを生産者より直接仕入れています。

クレープを通してお客様と笑顔のつながりを大切に。

Instagramアカウント:@3dayskurepu



## (株)佐原自動車 佐原自動車整備工場

栃木県那須郡那珂川町にある昭和50年創業の自動車販売、整備工場。

国産車はもちろん、輸入車、アメ車の車検整備、修理、板金塗装、キャンピングカーの修理、車検、販売、お客様ひとりひとりのご要望にお応えします。

那須周辺で車をお探しなら、佐原自動車販売・整備工場まで。

〒324-0501 栃木県那須郡那珂川町小川3291-4

<https://sawara-car-dealer.com/>

### Gold Supporter

ゴールドサポーター

三科志穂 | 星正憲 | 手嶋雅人

井上幸子 | 澁田寛樹

### Silver Supporter

シルバーサポーター

瀬尾企画 | 川田尚輝 | 野中美希

佐藤拓也 | 松田優一